

平成30年度

学校自己評価表（最終）

学校運営計画					
学校運営方針		生徒一人一人の進路希望達成のため、職員の英知を結集し、学校としての組織力を高め、水産・海洋教育の特色を活かし、教育活動（生徒指導、学習指導、進路指導等）の充実を図り、地域・保護者に信頼される学校づくりを目指す。			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
<b>【成果】</b> ・進路希望の達成 ・基礎学力の定着、学力向上 ・中途退学者、進級不認定者、長期欠席者の減少 ・実習等の安全確保 ・充実したキャリア教育 ・PR活動の充実 ・地域との連携 ・生徒募集  <b>【課題】</b> ・地域の将来を担う人材の輩出 ・地方都市創世へ貢献 ・ICT活用学習、教科横断学習 ・人間力育成 ・早期の進路意識向上と進路保障 ・キャリア教育・アントレプレナー教育の充実 ・シーマンシップの定着 ・生徒募集とPR活動の充実	生命、安全、健康に配慮した学習環境づくりを図る。		清潔で安全な学習環境づくりと使いやすい情報環境づくりに努める。	安全に配慮した実習、健康や健全な精神の育成に配慮した学校行事を実施する。	
	基本的な生活習慣を確立させ、気力・体力・知力を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。		授業を確保し、基礎学力の向上を図る。 生徒個々の実態に即した指導とICT活用により、学習意欲を向上させ、個の実現を図る。	いじめ・暴力を許さない指導を徹底する。 挨拶、言葉遣い、服装指導の徹底及び問題行動、謹慎者・退学者の人数を昨年より減らす。 社会の一員としての自覚を醸成し、高校生としてふさわしい生活習慣を身につけさせる。	
	ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を目指す学習指導の充実を図る。		産学官協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育を充実させ、社会において有為な人材の育成を図る。	授業を確保し、基礎学力の向上を図る。 生徒個々の実態に即した指導とICT活用により、学習意欲を向上させ、個の実現を図る。	目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 産・学・官と連携した事業に推進。 3年間の継続したキャリア教育としての進路指導を充実させる。 保護者との連携を密にする。
	保護者・地域との連携を強化を図る。		PTA総会や各種行事を通して保護者との意思疎通の機会を設定し、啓発を図るとともに情報提供の場とする。		
	重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
	ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を目指す学習指導の充実を図る。	授業を確保し、基礎学力の向上を図る。 目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。  (教務部・総務)	行事を整理・精選し、教科授業時数「1015」「総合的な学習の時間」時数「35」LHR時数「35」を確保するとともに、国・県の施策に対応するため、新校時表の円滑な運用を図る。		A
			学習習慣の定着を目指し学習機会（「学習の場」）を提示し、自己評価をベースにした目標と現状の把握のために、各学年部と連携して「考査自己評価票」および「家庭学習の記録票」の活用を図る。		B
			新入生の実状を把握し、各教科と連携した指導を充実させるために、「入学前学習調査」を実施する。		A
			学習指導の充実を積極的に情報発信するために、全科目のシラバスを学校公式HPに公開する。		A
		生徒個々の実態に即した指導により学習意欲を向上させ、個の実現を図る。  (学年)	総合学習やHRの補習対象者が学年全体で10人になるよう指導する。 (1学年)		A
「家庭学習記録票」等を活用した各考査ごとの個別指導を行い、学年末での追認考査対象者を減らす。 (2学年)			B		
学年で進学希望者向け学習合宿を計画し、継続した学習習慣と進学意識の向上を図る。 (2学年)			A		
主体的な学習習慣を確立するために「考査自己評価票」および「家庭学習の記録票」を活用する。 (3学年)			B		
目的を持たせることにより、積極的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 (水産科)		卒業認定における単位不認定者が0名となるように指導する。 (3学年)		A	
		各科目・コースの特色を生かし、生徒の課題解決能力やプレゼンテーション能力、表現力を高める。		A	
	各科目・コースでの課題研究の他に、補習などを設定して資格取得率の向上を図る。		A		
	立哨指導や服装・頭髪検査を実施し、挨拶・服装を正す。		A		
基本的な生活習慣を確立させ、気力・体力・させ、豊かな人間性の育成を図る。	挨拶、言葉遣い、服装指導の徹底及び問題行動、謹慎者、退学者が出ないようにする。 (生徒部・指導)	全校集会や学年集会を活用して問題行動が発生しないように指導する。		A	
		カード制による生徒指導を全職員が共通理解し、実施できるようにする。		B	
		遅刻・早退を厳しく指導し、時間厳守で行動できるようにする。 (1学年)		B	
	社会の一員としての自覚を醸成し、高校生としてふさわしい生活習慣を身につけさせる。	挨拶、服装、頭髪等の指導を徹底し、基本的な生活習慣を身につけさせる。 (1学年)		B	
		多様性を認め合える価値観を一層高めるよう、人権・同和教育教育の時間を学年独自のHRでも複数回実施する。 (2学年)		B	
		学年行事等の機会も含めて時間厳守の行動、連絡報告の習慣を徹底指導する。 (2学年)		A	
		家庭謹慎の指導を受ける生徒数を学年全体で延べ3名以下になるように指導する。 (3学年)		A	
		早期の意思形成を促し、希望進路の実現に向けて個に応じたきめ細やかな指導を		A	

	(学年)	行う。	(3学年)			
産学協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育を充実させる。	(進路部)	1年次に進路啓発講話(1学期)、進路がイダズ、上級学校・施設見学、地元企業見学(2学期)を実施し目的意識を持つ指導を行う。		A	A	
		2年次に進路がイダズ(2学期)、インターシップ(夏休み等)、小論文指導(3学期)を実施し、具体的進路目標を定める力をつける指導を行う。		A		
		3年次に就職、入学試験の全体・個別指導(面接、作文、一般常識、適性検査等)を3学年部と連携して徹底させ、進路希望実現の力を養う指導を行う。		A		
		『進路の手引き』を活用し、3年間を見通した一貫性のある指導を行う。		B		
保護者との連携を密にする。	(進路部)	P T A総会時に「進学のためのマネー講座」を開講し、進学希望の生徒が保護者から後押しを受けられるよう啓発を行う。		A	A	
		地区別P T A時に、詳細な進路情報提供と学年別の意見交換を行う。		A		
保護者・地域との連携を強化する。	(生徒部：企画・広報)	地域との連携を深めたカッターレース大会を企画し、能生漁港を活用した地元の名物イベントに成長させる。		A	A	
		体験クルージングを生徒主体で運営し、参加者満足度の高い行事にする。		A		
	(教務部：渉外・広報) (生徒部：企画・広報)	カッター大会や井陵祭などにより多くの保護者が参加できるように、P T A活動を充実させる。		B	B	
		スペシャルサイトの内容を充実させ、学校の取り組みや糸魚川地域の魅力発信に努め、地域・学校のファンを増やす。		B		
保護者と連携を図り、学校への理解と協力を求める。(学年)	(学年)	学年・学級通信を定期的に発行し、教育活動を紹介する。		A	A	
		保護者面談を実施し、保護者との連携を図る。		A		
生命、健康、安全に配慮した学習環境づくりを図る。	(教務部：環境)	校内における清掃や美化活動を徹底するとともに、年6回の大清掃および年1回のワックスがけを実施する。		A	A	
		思春期講話を実施し、全校生徒に健康への意識の向上を図るとともに、保健指導を年間を通して行い、高校生らしい生活習慣、行動がとれるように注意喚起していく。		A		
		図書館を昼休みと放課後に開館し、生徒が学習、研究、および読書に取り組みやすい環境を提供する。		A		
	安全に配慮した実習、健康や健全な精神の育成にする。(水産)(学年) (生徒部：企画・広報)	(水産)	安全第一に実習計画をたてる。実習中の事故をなくす。		A	A
			生徒会行事において安全に配慮した指導に努めて事故を起こさない。(学年)(生徒部：企画・広報)		A	
いじめ・暴力を許さない指導を徹底する。(生徒部等)	(生徒部等)	未然防止指導や早期発見に取り組み、生徒が気軽に相談できる体制を整備するとともに、様々な悩みに適切に対応し、安心して学校生活を送れるように配慮する。		A		
成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力定着、学力向上がみられ、学年末の追認試験対象者は減少傾向にある。</li> <li>生徒指導案件が年々減少傾向にあり、基本的な生活習慣が確立してきた。また、過去五年間、中途退学者が減少している。</li> <li>県、国の事業や、インターシップ、授業・実習等とおして、充実したキャリア教育・実学を推進することができた。</li> <li>県内外への生徒募集活動の成果があり、募集定員を超えた。</li> </ul>		総合評価 A		